

第 6 章

環境保全に向けての
参加の推進



第6章 環境保全に向けての参加の推進

第1節 環境教育・環境学習の推進

1 環境教育【高校教育課、特別支援教育課、義務教育課、環境政策課】

(1) 環境教育のねらい

学校においては、持続可能な社会の実現を目指し、児童生徒の環境問題への関心を高めるとともに、人間と環境の関わり方や環境に対する人間の責任・役割について理解させ、環境の保全やよりよい環境の創造に向け、生涯にわたって主体的に行動できる能力や態度を育成することが大切です。

そのためには、以下のことが求められます。

- ①教育課程への適切な位置付けと、年間指導計画に基づいた指導
- ②全教職員の共通理解と推進体制の確立
- ③地域の人材や自然、素材（ひと・もの・こと）を生かした学習活動の工夫

(2) 「環境教育講座」の実施

教育センターの研修講座で、小・中・高・特別支援学校の教職員を対象に、講義及び実習を通して環境教育について認識を深めるとともに、指導力の向上を図りました。

○平成24年度「環境教育講座」

目 的…環境教育の視点をもって学校における様々な教育活動を展開し、児童生徒の環境リテラシーを育むよう、講義・協議等を通して指導力の向上を図る。

期 間…1日間

会 場…島根県教育センター

受講人数…16名（小：7名、中：3名、高：4名、特：2名）

研修内容…

講 義 環境教育に求められること

講義・実習 環境教育の様々な取組

協 議 これからの環境教育の実践に向けて

講 師…島根大学教育学部 准教授 松本 一郎

島根県教育センター指導主事

(3) 「学校版エコライフチャレンジしまね」の推進

- ・環境に負荷の少ない学校運営を目指して、平成18年度から県内全ての公立・私立・附属学校を対象にして開始しました。
- ・各学校での消費エネルギーを入力すると、自動的にグラフ化して表示したり、二酸化炭素の削減量を表示したりできます。また、各学校の取組計画や、活動レポートを掲載し、県民に広く公開することで、情報の発信や共有化も可能です。
- ・平成25年3月31日現在、306校の登録（県内の全ての小・中・高等学校・特別支援学校の75%）がありました。
- ・「学校版エコライフチャレンジしまね」のURL
URL <http://www.ecoschool.jp/scl/>

(4) 補助事業

「学校版エコライフチャレンジしまね」の登録促進と、環境学習の充実を目的に、産業廃棄物減

第6章 環境保全に向けての参加の促進

量税の一部を活用し、小・中学校は「環境教育推進事業」、県立学校は「環境保全活動推進事業」を実施しました。また、平成24年度から小・中学校では、ふるさとに根ざした環境教育を推進する「環境教育総合支援事業」を実施しています。

① 環境教育推進事業

学校版エコライフチャレンジしまね登録数に対し、1校5万円を上限に、希望する市町村に対して補助を行いました。平成24年度は、18市町村の207校に交付しました。交付対象校は、その成果等を「学校版エコライフチャレンジしまね」の各校のホームページ上でレポートしました。

② 環境保全活動推進事業

希望する高等学校、特別支援学校に対し、一般的な環境教育および3R推進活動に1校30万円を上限として補助しました。平成24年度は、計16校に交付しました。

③ 環境教育総合支援事業

平成24年度は、中学校区（幼保等・小・中学校）単位で、8つの実践研究推進地域を指定し、幼保等・小・中学校と地域住民が連携協働して、創意工夫によるふるさとに根ざした環境教育を推進するための実践研究を支援しました。1地域あたり、2～3年間で合計500万円を上限に事業費を支援しました。

(5) 環境教育の実践例

① 小・中学校の取組

○川本町立川本小学校・川本中学校

児童生徒一人一人に、身近な環境とふれあいながら環境に関心をもち、様々な体験を通して環境への理解を深め、身の回りの環境を大切にしようとする心を育成し、環境保全やより良い環境を創造する行動力を育成する。

<活動例>

- 水棲生物調べ
- 栽培活動（地元の栽培農家の方を外部講師として招き、エゴマづくりに取り組む。）
- 地産地消の観点から、地元の旬の食材を取り入れたお弁当作り（食材の無駄を出さない工夫）
- クリーン学習（ゴミを出さない工夫、リサイクル）
- 江の川の調査（小中連携しての取組で、地元江の川漁協の方の協力のもと活動）等



○隠岐の島町立西郷小学校・西郷中学校

ジオパーク学習の関連を考慮したカリキュラムを作成し、郷土の自然への愛着を基本にして環境教育を進め、より児童生徒が身近な環境や環境問題に関心を持ち、自然や生命を尊重する心やふるさとを愛する心を持ち、環境保全に配慮した望ましい働きかけができるようになることを目指す。

<活動例>

- 隠岐の宝、発見！～隠岐の自然～（ジオパークに関する学習会に児童と保護者が参加）
- 川を調べよう（生き物の観察、水質検査、調べたことをまとめる活動）
- 隠岐郡中学校生徒会サミット（隠岐郡内7中学校の生徒会リーダーが集まり活動）等
 - ・環境教育に視点を当てた授業を行うことで、より一層自分の住む隠岐の島町の環境に関心が持てるようになりました。
 - ・親子活動にジオパークに関する学習を取り入れたり、学級通信で環境に関する授業の様子

を紹介したりすることで、保護者も学校が取り組んでいる環境教育に理解を深めることができました。

② 県立学校の取組

○隠岐水産高等学校

・海洋環境保全活動

小型船艇を使い、会場から学校周辺海域のごみ回収を行うとともに、地域に協力を呼びかけ、学校周辺の海域や通学路等の清掃活動を行うことにより、漁場環境保全の大切さを再認識するとともに地域への貢献と愛着心を深めることができました。

・海洋生物資源維持活動

島根県水産振興協会と協力し、海洋生産科資源生産コースで中間育成したマダイ稚魚2,500匹を、地元小学校児童等とともに放流活動を行うことにより、児童たちに海の環境や海洋資源に対する興味・関心を持ってもらうことができました。また、海洋環境に重要な藻場の整備を目的とし、海藻を増やす試みも行い、海洋生物資源維持に取り組みました。

○松江養護学校

・リサイクル肥料を使用した野菜作り（安来分教室）

循環型有機農業に取り組まれている地元の方から、循環型有機栽培について指導いただきながら、サツマイモや大根などを栽培し、環境に優しい安心・安全な野菜作りに取り組みました。また、環境美化活動を兼ねて、地元の公園の落ち葉収集を行い、集めた落ち葉に鶏糞を混ぜて腐葉土作りに取り組みました。これらの活動をとおして畑に生える雑草や落ち葉も貴重な肥料となることを学ぶことができました。

③ しまね出前講座の活用

○各学校では、県が実施している「しまね出前講座」（県民の要望に応じて県職員が出向いて話や意見交換を行う）を活用した環境学習も行われています。実施回数の多い下水道出前講座「下水道ってな～に？」では、家庭での生活排水対策の意識向上を目的として下水道のしくみや役割を実験などによりわかりやすく解説しており、40校、1,571名の児童・生徒が受講しました。

(6) 「学校における環境教育の手引」の作成

学校における環境環境を充実させる一環として、環境教育を実施する際の具体的なポイントなどをまとめた「学校における環境教育の手引」を、平成25年3月に島根県と島根県教育委員会と共同で作成し、県内全ての小学校、中学校、高等学校及び特別支援支援学校に配布しました。

【各種受賞校等】

○みんなで調べる宍道湖流入河川調査

- | | |
|-------------------|-----------|
| ・環境大臣賞 | 出雲市立荘原小学校 |
| ・島根県知事賞 | 出雲市立伊野小学校 |
| ・国土交通省中国地方整備局長賞 | 松江市立来待小学校 |
| ・農林水産省中国四国農政局長賞 | 雲南市立吉田小学校 |
| ・宍道湖水質汚濁防止対策協議会長賞 | 出雲市立灘分小学校 |

○みんなで調べる中海流入河川調査

- | | |
|---------------|-----------|
| ・島根県知事賞 | 安来市立広瀬小学校 |
| ・島根県教育委員会教育長賞 | 安来市立能義小学校 |

第6章 環境保全に向けての参加の促進

- ・奨励賞 安来市立十神小学校 安来市立島田小学校
- 環境美化教育優良校等表彰
 - ・優良校 協会会長賞 大田市立大森小学校
- しまね地球温暖化防止活動大賞
 - ・大賞 大田市立五十猛小学校
 - ・優秀賞 大田市立北三瓶小学校
- 緑の少年団発表大会
 - ・最優秀賞 江津市立桜江小学校 緑の少年団
 - ・優良賞 松江市立玉湯中学校 緑の少年団
 - ・みどりの奨励賞 奥出雲町立馬木小学校 緑の少年団キラキラ馬木っ子レンジャー
 - 邑南町立口羽小学校 緑の少年団
 - 出雲市立湖陵小学校 緑の少年団
 - 益田市立匹見中学校 緑の少年団
- 愛鳥モデル校
 - ・益田市立桂平小学校

2 こどもエコクラブ事業【環境政策課】

こどもエコクラブ事業は、次世代を担う子供たち（幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加可能）を対象とした環境活動のクラブ事業で、子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的として、(財)日本環境協会が実施しています。

※平成7年度～平成22年度：環境省事業

平成23年度～：(財)日本環境協会事業

平成23年度は、県内で64のこどもエコクラブの登録があり、様々な環境保全活動を行いました。

表6-1-1 こどもエコクラブの登録状況

	登録クラブ	メンバー（人）	サポーター（人）
平成7年度	37	84	-
平成8年度	56	811	-
平成9年度	44	621	-
平成10年度	54	735	106
平成11年度	54	609	145
平成12年度	41	643	147
平成13年度	36	745	151
平成14年度	38	1,165	211
平成15年度	56	1,168	198
平成16年度	46	1,029	250
平成17年度	38	691	202
平成18年度	34	809	208
平成19年度	60	4,406	583
平成20年度	48	1,996	439
平成21年度	78	2,811	577
平成22年度	69	3,084	538
平成23年度	64	2,983	538
平成24年度	35	1,334	338

第2節 各主体の環境保全活動の推進【環境政策課】

1 普及啓発事業

(1) 環境月間行事

平成6年度から環境月間を6月に改め、6月5日の環境の日を中心として、各種の事業を実施しています。

① ライトダウンキャンペーン

「でんきを消して、未来をみつめよう」をスローガンに、6月21日から7月7日までの間、ライトアップ施設や家庭の照明の消灯を呼びかけました。

また、6月21日（夏至）と7月7日（七夕）を特別実施日として、両日の夜8時から10時までの2時間、一斉消灯を呼びかけました。

② クリーンしまね—環境美化行動の日

実践活動を通じて環境美化意識や資源を大切にする意識の普及啓発を図るため、環境美化行動の日を設定し、広く一般参加を得て清掃活動、空き缶の分別収集とリサイクル等を行いました。

・期日：6月3日(日)

・提唱：島根県

・内容：市町村、各種団体等により公園、緑地、水辺等の清掃や空き缶の分別収集

(2) 環境保全普及啓発の広報

今日の多様化した環境問題を解決していくためには、県民、事業者及び各種団体等の自主的かつ積極的な活動が不可欠となっています。

そこで、すべての県民が環境に配慮した行動がとれるように、県の環境施策や各種月間等の環境情報について、最も効果的な伝達媒体であるマスメディアを活用し広報・啓発を図っています。

・新聞広報3件…3R推進月間、地球温暖化防止月間、省エネルギー月間

・ラジオスポット放送…エコドライブ

2 環境白書の発行

本県の環境の状況や環境の保全に関する施策の実施状況等を取りまとめ、「環境白書」として作成し、各市町村、公立図書館や関係機関等へ配布するとともに県のホームページに掲載し、県民や事業者への公表に努めました。

3 環境マネジメントシステムの普及・啓発

「企業が環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて自主的に取り組むこと」といった内容を指す「環境管理」について、国際的な統一規格としてISO14000シリーズ環境管理システムに関する一部が平成8年9月に規格化されました。

環境マネジメントシステムは、簡易版も含めて今日の環境問題解決への有効な手法であるので、事業者の認証取得への情報提供を図っています。

4 環境保全活動助成事業

(公財)しまね自然と環境財団を通じて、以下の事業を実施しました。

① 環境保全活動助成金の交付

県内のボランティア団体や法人が行う自主的な環境保全活動を支援するため資金の一部を助成しました。

第6章 環境保全に向けての参加の促進

- ・助成件数：23件
- ・助成額（確定）：7,180千円
- ② 講師・指導員派遣事業
環境アドバイザーとして15名を委嘱し、県民や事業者が実施する研修会等に派遣しました。
- ・派遣件数：22件
- ③ 環境フェアの開催
「しまねエコフェスタ2012」を開催し、環境団体活動の展示、活動発表を行い、団体間交流と県民への情報発信を行いました。
- ・日 時 平成24年10月7日～8日
- ・場 所 大田市（鳥根県立三瓶自然館）
- ・参加者 13団体、約14,000人
- ・概 要 環境団体の活動内容の展示及び発表、電気自動車の展示・試乗会、LEDキャンドル工作体験等多彩な催しを行いました。